

元旦ビューティ工業（本社・神奈川県藤沢市）は4月10日、1965年（昭40）の創業から60周年を迎えた。建築板金職人から叩き上げて金属屋根の事業を興した船木元巨会長を中心に、独創的な技術に裏打ちされた開発を続ける中、大型建築、一般住宅向けの双方で製品ラインアップを広げてきた。目下、暮らして安全と快適さを提供してきた今日にかけての軌跡は、顕著に移ろう「変化」を追い風に、新たな飛躍の礎になろうとしている。

1週間後に節目の日が迫る4月3日。船木会長にこれまでの歩みに対する所見を尋ねたところ、社業を支えてくれた関係者に対する謝辞を述べたの続き、「うちはいつも何かあるたびに必ず新製品が出来ている」と応じた。

直近では、2015年の創業50周年に伝統の菱葺きを現代風にアレンジしたメタル素材「元巨くろす50」の量産が始まり、17年には山梨第一工

元旦ビューティ工業 創業60周年

「製・販・施工」共栄へ「互助」で生き抜く

付加価値伝え、提案力に磨き



「技術をお金に換える力を付けていかなければならない」と話す創業者の船木元巨会長

場（山梨県笛吹市）を開設時を投入する。と、物価高や少子高齢化の波 今回の製品でもあらゆる可能性が浮かぶ。メーカーとして屈指の品質レベルで供給責任を果たす傍ら、各社が取り組んできた「経営体質の改善」を推し進めるべく、「技術をお金に換える力を付けていかなければならない」。

同時に船木会長は「これらの元旦を背負っていく、今の若い人たちにも会社の経営方針を理解してもらいたい」と投げ掛ける。自らの言葉で製品の付加価値をどう伝えるのか。そこに意思や考えがなければ、相手の心を打たない。「仕事というのは情熱が解決する」。輝かしい未来を創造する上で「会社の将来を決定づけるのは次代の担い手」との思いがゆえに、一人ひとりの提案力に磨きをかけられるよう、かねてから重視する営業の教育にあらためて力を入れる。

も60周年のタイミングに創意工夫をいかんなく発揮する機会がめぐってきた。

「人の歩んだ道は歩まない」と、その役割に応じて、全員で（同）という独立自尊の精神の下、常に疑問をもち、総力を挙げて改善の工夫や効率化の方法を探ってきた。1967年の横葺き屋根「ビューテイルーフ」に始まった特許と意匠の出願件数は、およそ4500。あくなき挑戦を続ける同社が、事あるごとに逆境を原動力に替えてきたのは、目の一致するところであり、

新たに市場投入する2製品（写真両端）。金属屋根事業を興して以来、課題解決に最適な仕様を導き出し続ける



この春には、船木会長が40年以上前に編み出した、金属屋根の雪止め金具「魔除け」をモチーフにしたキャラクター「マヨツケ」が誕生した。社員の発案がカタチとなり、身近な素材を生かした試みに、船木会長も「結構おもしろい。すごく良いアイデア」と太鼓判を押す。こうしている最中にも個々の観察眼は研ぎ澄まされ、次なる商機を手に繰り寄せる。大小の探求心が幾重にも合わさる好循環が成長の源泉となっていく。

（中野 裕介）

